

知ってみよう! 学べる仙台

様々な団体と取り組む「ふるさとの杜再生プロジェクト」

東日本大震災により、仙台市の東部地域のみどりは甚大な被害を受けました。個人・NPO・企業等、様々な立場の市民が主役となり「杜の都・仙台」のみどりの復興を目指す「ふるさとの杜再生プロジェクト」を実施しています。東部地域のみどりを30年かけて植えて、多様な生き物が生育するふるさとの杜再生を目指し、色々な郷土の樹種を植えています。樹木が根を張り育つことで地盤が安定し、津波の減衰効果もあります。今年3月に開催された「仙台防災未来フォーラム2019」では、海岸防災林にも植樹しているコナラ・クヌギなどのどんぐりを使ったワークショップを行いました。どんぐりの木は、火事の際には延焼防止作用があり、防災に優れた樹木でもあります。

プロジェクトでは、一般の方も参加できる「植樹会」や「育樹会」を定期的に開催しており、市政だより等にイベント情報を掲載しています。ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。

詳細は以下までお問い合わせください。

仙台市建設局百年の杜推進課

TEL 022-214-8389 FAX 022-216-0637 E-mail ken010240@city.sendai.jp

Facebook 「仙台ふるさとの杜再生プロジェクト」<https://www.facebook.com/sendaiurumori/>

HP <https://www.city.sendai.jp/ryokukasuishin/kurashi/shizen/midori/project/>



▲「仙台防災未来フォーラム2019」でのワークショップの様子



▲植樹会の様子

お知らせ

●11月に「仙台防災未来フォーラム」を開催します

震災の経験や教訓を未来につなぐため、市民が防災を学び、日頃の活動を発信できるイベント「仙台防災未来フォーラム」。2016年から毎年3月に開催してきましたが、今回は「世界防災フォーラム」「震災対策技術展」との同時開催で11月に開催します。

「わたしたちの防災を届けよう 世界へ、未来へ」をテーマに、展示や発表、ワークショップ、ステージショーなどを開催する予定です。子どもから大人まで参加できるプログラムがもりだくさん。ぜひご来場ください!

「仙台防災未来フォーラム」に関する最新情報は、ホームページや Facebook をご覧ください。以下運営事務局までお問い合わせください。

仙台防災未来フォーラム 運営事務局

TEL 090-2952-0251 E-mail info@sd-resilience.jp

HP https://sendai-resilience.jp/mirai-forum_n/

Facebook 「仙台防災未来フォーラム」<https://www.facebook.com/sendai.bosaimiraiforum/>

同時開催行事

世界防災フォーラム／防災ダボス会議@仙台2019

国内外から産・官・学・民の防災関係者が集まる「市民参加型」国際会議

日時 2019年11月9日(土)～12日(火) 会場 仙台国際センター会議棟、東北大学川内蔵ホール

HP <http://www.worldbosaiforum.com/2019/>

第10回「震災対策技術展」東北 企業等の団体が災害に役立つ技術を表示

日時 2019年11月10日(日)～11日(月) 会場 仙台国際センター展示棟

HP <https://www.shinsaiaexpo.com/tohoku/>

●「せんだい防災のひろば2019」を開催します

市民の皆様が防災や減災について体験しながら学べる、幅広い年代におすすめのイベントです。沿岸部地域のグルメも味わえます。ぜひご来場ください。

日時 2019年9月1日(日)10:00～15:00

会場 仙台市勾当台公園 いこいのゾーン・野外音楽堂(仙台市青葉区本町3-9) 主催 仙台市

仙台市危機管理室減災推進課 TEL 022-214-3109 E-mail kks000130@city.sendai.jp

仙台防災未来フォーラム

日時 2019年11月10日(日)

会場 仙台国際センター展示棟(予定)

主催 仙台市



▲前回のフォーラムの様子(ステージショー)



▲前回のフォーラムの様子(ワークショップ)



▲昨年の様子

発行 仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室
〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1
TEL: 022-214-8098
FAX: 022-214-8497
E-mail: mac001605@city.sendai.jp

経験をつなぎ、そして未来へ
防災環境都市・仙台

発行日 2019年7月

「えーる」は防災環境都市・仙台ホームページにも掲載しています。

<https://sendai-resilience.jp/>

仙台市の取り組みから、市民の方々の取り組みまで、より詳しく紹介しています。

▶次号は10月発行予定です。

タブレットでも! スマホでも!



この印刷物は「再生紙」を使用しています。



防災環境都市・仙台ニューズレター



「伝える」「繋げる」「備える」を応援する
防災環境都市・仙台の市民情報誌です。

仙台市では、「杜の都」の豊かな環境を活かしながら、防災力のあるまちをつくり、ひとをはぐくむ「防災環境都市づくり」を進めています。「えーる」では、防災・減災や環境に関わるさまざまな分野で活躍する「ひと」に注目し、その取り組みを紹介していきます。

2019 No.11

テーマ
ともに学び、
実践する防災



表紙インタビュー
伝える仙台

宮城県聴覚障害者情報センター
(みみサボみやぎ) 施設長
松本 隆一さん

災害時に備え、相手に合わせたコミュニケーションを。

宮城県聴覚障害者情報センター(みみサボみやぎ)では、聴覚障害者やそのご家族の相談支援や、ホームページやブログ上での字幕つき手話動画による情報発信、巡回相談会の機能をもつ「みみサボサロン」の開催などを行っています。また、地域の方々に聴覚障害者の特性やコミュニケーション方法を伝える出前講座も実施しています。聴覚障害は外見からはわかりにくく、また「聞こえない」と一口に言ってもその度合いは人によって様々です。手話のわからない方もいるので、はっきり口の動きを見せる話し方や筆談など、相手に合ったコミュニケーション方法を知ることが大切になります。

では目で見てわかる情報提供や聴覚障害への理解促進、手話通訳者・要約筆記者の派遣や育成に力を入れながら、より効果的な支援に努めています。

日頃からの聴覚障害者の自助努力としては、「聞こえないことを知ってもらおう」、また「自分に合うコミュニケーション方法を伝える」事があげられます。もし聴覚障害者が助けを求めているら、遠慮なく声をかけて頂きたいです。避難所にホワイトボードやモニターを設置する、手話通訳を配置する事なども重要だと思います。また、適切なコミュニケーション方法を覚えれば、聴覚障害者も救援物資の仕分けやがれきり撤去などの支援活動ができることもお伝えしたいです。当センターでは、仙台市地域防災リーダー(SBL)や民生委員などへの出前講座も行っています。こうした機会を通して、聴覚障害者に必要な情報や支援、また災害への備えについて、一緒に考えてもらうきっかけが作れたら嬉しいですね。



▲出前講座の様子(西多賀市民センター)



▲「筆談機」や案内版、仙台市障害企画課で作成した聴覚障害者のための「緊急時お願いカード」

宮城県聴覚障害者情報センター(みみサボみやぎ)

聴覚障害に関するさまざまな情報提供を中心に、総合的・専門的な相談事業、手話通訳者や要約筆記者の養成・研修・派遣、聴覚障害に関する理解促進や啓発等、交流及び社会参加の中核的拠点として地域とのつながりづくりを行い、災害時には聴覚障害者への支援活動の拠点としての機能を果たす。

〒980-0014 仙台市青葉区本町 3-1-6 宮城県本町第3分庁舎 1階 TEL 022-393-5501 FAX 022-393-5502 E-mail info@mifitissuppo-miyagi.org



テーマ・インタビュー
繋げる仙台

防災にいかす私たちのアイデア

～段ボール製の避難所用授乳室「HONEY ROOM」～

「仙台防災未来フォーラム2019」において、東北工業大学工学部建築学科の皆さんが発案した段ボール製の避難所用授乳室「HONEY ROOM (ハニールーム)」が実寸大で展示されました。今回は、大学生のアイデアをいかに企業との協働を通じて形になった防災の取り組みについてお伝えします。



▲「仙台防災未来フォーラム2019」に展示された段ボール製 避難所用授乳室「HONEY ROOM」

東北工業大学 工学部建築学科 学科長

石井 敏さん(写真左から)

専門は建築計画学。福祉環境計画が専門。浜松市出身。

東北工業大学 工学部建築学科 4年

浅野 陽菜さん

建築システムコース 堀研究室所属 大崎市出身。

高泉 沙知恵さん

建築システムコース 堀研究室所属 美里町出身。

鈴木 楓さん

建築システムコース 藤研究室所属 北上市出身。

母親が安心して授乳できる空間を避難所に

— 「HONEY ROOM」発案のきっかけは何ですか。

高泉 2018年11月に、「仙台防災未来フォーラム2019」に向けた「避難所等」で活用できる段ボール製品を提案するプロジェクトの話の伺いました。私自身、東日本大震災の時には中学生で、避難所生活を体験があります。「子ども」に着目して提案をしたいと思いましたが、3人で集まれる時間も限られた中で何をやるかを決めるまでがとても難しかったです。

鈴木 当時のことを調べていく中で、たくさんの方が同じ空間で生活する避難所には、周囲の視線を遮るものが何もなく、小さな子どものお母さんたちが目を気にしながら授乳していたことを知りました。そこから3人で相談し、母親が安心して使用することができる授乳室「HONEY ROOM」を考案しました。

企業との協働で、大学での学びがさらに実践的に

— 特にこだわったのは、どんなところですか。

鈴木 最初は形状を円形で考えたのですが、効率的な面積利用を考えると正方形へ、さらに室内の圧迫感等を配慮して六角形に変えました。また、子どもを抱いたまま中に入りやすいドアは設けず、入口を三つの壁面で覆う形にしました。

高泉 私たちの作った模型を強化段ボールで実寸大に製作してくださいました。今野梱包様*さんは、震災時に避難所へ段ボール製の家具等を提供した実績をお持ちです。被災者の微妙な心理等に配慮してサイズを検討することや天井のブラインド状の窓、また「使用中」のプレートなどのアドバイスをいただき、より実用的なものにすることができました。

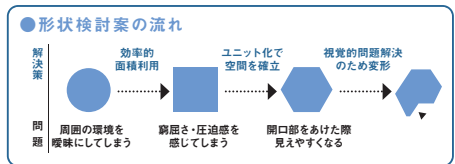
フォーラムでの好評価を受け、製品化へ

— フォーラムに出展してどんなことを感じましたか。

浅野 自分たちが考案した作品が、フォーラム当日に実寸大で展示されるのを見て、感激しました。来場者が次々とHONEY ROOMの中に入り、女性の方から「人目を気にせず、落ち着いて授乳できる」、「子どもと一緒に入れる」、「東日本大震災当時も避難所にこうしたスペースがあったら良かった」などのご意見をいただき、とても嬉しかったです。

高泉 行政やNPOの方から、製品として欲しいというお話を頂き、今野梱包様さんからのアドバイスもあって、現在、製品化に向けた意匠権*の登録申請を進めています。災害時に限らず様々な場面でこのHONEY ROOMを役立ててもらえたら嬉しいですね。

浅野 フォーラムのプロジェクトを通して防災・減災について考え、また自分たちの学んだことを社会に役立てる経験ができたことは実践的な学びになりました。他の大学生の皆さんにも、ぜひこうした機会にチャレンジして欲しいと思います。



* 意匠権 知的財産権のひとつで、物のデザイン(意匠)を独占的に所有できる権利。
* マルチステークホルダー 行政・企業・市民団体・研究機関などすべての関係者や関係機関。

建築学科 石井学科長からのコメント

16の学生提案の中から選ばれたこの案のコンセプトは、「避難所に必要とされる授乳室」という女性に配慮する視点を取り入れられており、フォーラムのテーマであった「主役はマルチステークホルダー」に合致した作品となりました。当建築学科では、建物や場所といった人の暮らしを支える空間づくりを学んでいます。HONEY ROOMの設計アイデアには、彼女たちが建築学科で学んできたことが、しっかりといかされていきました。また、今野梱包様さんに実物大のものを製作していただく中で、自分たちのアイデアが現実の人に使われるものになっていく過程は、建築を学ぶ学生にとって大変貴重な体験になったと思います。このHONEY ROOMが、仙台発の新たな防災製品として社会に広がり、災害時に役立てられることを期待したいです。



▲考案時のミニチュア模型

コラム

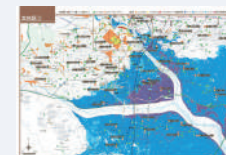
備える仙台

9月上旬から「仙台防災タウンページ」
2019年版が配布されます！

本市では、2017年よりNTTタウンページ(株)との協定に基づき「仙台防災タウンページ」を作成し、市内の全世帯・全事業所へ配布しています。「仙台防災タウンページ」は、地震や津波、大雨災害から身を守るために市民の皆様が知っていただきたい情報をまとめた冊子で、最新のハザードマップや自然災害等による避難行動の方法、日頃からの災害の備えなどの学習ページで構成されています。お住まいの地域の危険箇所や、防災・減災に関する情報を分かりやすく紹介しています。2019年度版の「仙台防災タウンページ」は、今年9月中旬に全世帯、全事業所に配布予定で、ご希望の方には市役所本庁舎1階の市政情報センターや市民のへや、各区役所の区民生活課などでも配布します。万一の災害に備え、職場やご家庭ですぐ手の届くところに置いてご活用ください。



▲ハザードマップ説明会の様子 (2019年5月)



詳細は以下ホームページをご覧ください。

仙台市危機管理室減災推進課

TEL 022-214-3048 FAX 022-214-8096

E-mail kks000130@city.sendai.jp

HP <https://www.city.sendai.jp/anzensuishin/krushii/anzen/saigaitaisaku/townpage/townpage.html>

仙台防災未来フォーラム2019・アートコンクール 「仙台防災未来フォーラム賞」受賞者の声

3月に開催された「仙台防災未来フォーラム2019・アートコンクール」。たくさんのご応募をいただいた中から佐々木杏華さんの作品が、当日の来場者の皆様の投票による「仙台防災未来フォーラム賞」に選ばれました。喜びの声を紹介します。



仙台市立高沢中学校 3年(受賞時2年生)

佐々木 杏華さん
作品タイトル「杜の都」

小さい頃から絵を描くのが好きで、現在、美術部に所属しています。美術部の先生からアートコンクールの話を伺い、テーマに選んだのは「未来の防災環境都市・仙台」です。「防災環境都市」について自分でホームページなどでいろいろ調べ、災害に強く、環境にも配慮した、安心して暮らせるまちをイメージして構図を考えました。豊かな海には魚たちや堤防、いけす、ヨット、浜辺には工場、中央は緑あふれる森、その奥に未来の仙台の都市と、津波に強いまちを意識して作品を仕上げています。生き生きとした鳥や魚で生き物が住みやすい環境を表現し、海の青や森の緑などの色づかいでは、自然の鮮やかさや穏やかさが出るよう工夫をしました。自分の得意な絵画を通して、仙台市の自然の素晴らしさや防災の大切さを皆さんに伝えることができたら嬉しいと思います。

東北工業大学 工学部建築学科

1964年、仙台市に創設。工学部とライフデザイン学部、大学院を有する私立大学。工学部には建築学科他5つの専門学科がある。建築学科の学生は、せんだいデザインリーグ卒業設計日本一決定戦を主催する仙台建築都市学生会にも参加。2020年4月に建築学部建築学科を新設予定。TEL 022-305-3311 (八木山キャンパス) ホームページ <https://www.tohtech.ac.jp>

* 今野梱包株式会社

1973年、石巻市に創業。大型製品の段ボール梱包や海外向け精密機器梱包に活用されている強化段ボールの加工他、木材及び合板製パレット、木製品の製造・販売を手がける。東日本大震災では避難所や仮設校舎に段ボール製の棚やテーブル等の家具を提供。